



2025年11月11日

各 位

会 社 名 乾汽船株式会社
代表者名 代表取締役社長 乾 康之
(コード番号: 9308 東証スタンダード)
問合せ先 経理部長 一井 聰
(TEL. 03-5548-8613)

2026年3月期第2四半期連結累計期間業績予想値と実績値の差異 及び通期連結業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ

2025年8月8日に公表した2026年3月期第2四半期連結累計期間業績予想値(2025年4月1日～2025年9月30日)と本日公表の実績値に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績動向等を踏まえ、2025年8月8日に公表した2026年3月期(2025年4月1日～2026年3月31日)の連結業績予想及び配当予想を下記の通り修正することとしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期第2四半期連結累計期間業績予想値と実績値の差異(2025年4月1日～2025年9月30日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する中間純利益 | 1株当たり中間純利益 |
|--|---------------|-------------|-------------|-----------------|--------------|
| 前回発表予想(A) | 百万円 16,286 | 百万円 △122 | 百万円 △205 | 百万円 △220 | 円 錢 △8.75 |
| 実績値(B) | 15,692 | △71 | △132 | △9 | △0.37 |
| 増減額(B-A) | △594 | 51 | 73 | 211 | — |
| 増減率(%) | △3.7% | — | — | — | — |
| (ご参考)前期実績 (2025年3月期第2四半期 連結累計期間) | 16,696 | 2,824 | 2,709 | 3,261 | 129.89 |

2. 2026年3月期第2四半期連結累計期間業績予想値と実績値の差異理由

外航海運事業は、概ね前回発表時の市況想定内で推移しましたが、上期に予定していた船舶の入渠工事の一部を下期に変更したことにより営業費用が減少し、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する中間純利益は、前回発表を上回る結果となりました。

なお、倉庫・運送事業および不動産事業については概ね前回発表予想通りに推移いたしました。

3. 2026年3月期通期連結業績予想値の修正 (2025年4月1日～2026年3月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1株当たり当期純利益 |
|-------------------------|---------------|------------|------------|-----------------|--------------|
| 前回発表予想(A) | 百万円 32,424 | 百万円 870 | 百万円 678 | 百万円 607 | 円 錢 24.15 |
| 今回発表予想(B) | 32,340 | 810 | 596 | 570 | 22.64 |
| 増減額(B-A) | △84 | △60 | △82 | △37 | — |
| 増減率(%) | △0.3% | △6.9% | △12.1% | △6.1% | — |
| (ご参考)前期実績 (2025年3月期) | 31,770 | 3,656 | 3,836 | 5,021 | 199.88 |

4. 業績予想の修正理由

不動産事業において、保有物件の維持・更新に伴う修繕費の増加等により、営業利益が減少する見込みのため、通期業績予想を下方修正いたします。

外航海運事業は、概ね前回発表時の市況想定内で推移する見込みであり、また、倉庫・運送事業は概ね期初想定通りに進捗しております。

5. 配当予想の修正

| | 年間配当金 | | |
|-------------------------|---------------|-----------|-----------|
| | 第2四半期末 円 錢 | 期末 円 錢 | 合計 円 錢 |
| 前回発表予想 | | 4.25 | 7.25 |
| 今回発表予想 | | 3.79 | 6.79 |
| 当期実績 | 3.00 | | |
| (ご参考)前期実績 (2025年3月期) | 6.00 | 70.00 | 76.00 |

6. 配当予想の修正理由

今回の業績予想修正に伴い、以下、既報の配当方針に基づき、年間配当金（合計）を6.79円に修正しております。

当社は、「事業特性」、「中長期的成長を重視した経営資源の配分」、「財務基盤」の3つのバランスがとれた株主還元策であることを基本として、業績にかかわらない一定水準の配当を安定的に維持する配当政策を行ってまいります。基本となる考え方は、「良いときは笑い、悪いときにも泣かない」です。

業績に応じて、良いとき、悪いときの判断基準および最低配当額を定め、「良いとき」には配当性向の累進により増配し、「悪いとき」にも無配を前提にはいたしません。

| 判断基準 | 配当目標計算基準 |
|------|---------------|
| 良いとき | 配当性向 30～45%程度 |
| 基本 | 配当性向 30%程度 |
| 悪いとき | 年間 6 円 |

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後、様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上